

設問

次の文章を読み、この文章において、まず、筆者が主張していることを二〇〇字程度に要約しなさい。次に、筆者の意見を踏まえてこの問題についてのあなたの考えを論述しなさい。全体の字数は八〇〇字以内とします。

(社説) 学校図書館 子どもが集う楽しい場所に

カギがかかっていて暗い。古い本しか置いていない。そんな学校図書館は少なくないのではない。子どもたちが集い、思い出に残る本と出会える場所に整備する必要がある。

公立小中学校の図書購入費として国が自治体に交付している資金が十分に活用されていない。二〇二二年度は二二〇億円を交付したが、実際に図書の購入に使われたのは一二六億円にとどまった。

この資金は、使途が自治体の裁量に任されているため、自治体は福祉の充実や教育現場のICT(情報通信技術)整備などを優先したとみられている。

図書の購入に充てられるべき資金が、他の政策に使われている現状は看過できない。

社会のデジタル化が進み、多くの情報が氾濫している。真偽を見極め、情報を正しく活用する能力を身につけるには、読書活動が欠かせない。思考力を養う探究学習の場としても、学校図書館の役割は高まっている。

子どもの読書環境を整えることは、未来への投資である。目先の課題ばかりに目を奪われず、本来の目的通りに使うべきだ。国は補助金のように、使途を限定した形での支給を検討してはどうか。

ドイツが東西に分かれているという古い記述の本が、そのまま置かれている学校もある。残すべき本と、買い替えるべき本の選別を進めなければならない。

そのためにも、本に関する専門知識を持った学校司書や司書教諭の存在が重要になる。「面白い本が読みたい」と駆け込んでくる子どもたちに、的確に本を紹介する役割も期待されている。

学校司書が不在で、多くの時間帯は図書館が閉まっている学校が珍しくない。学校図書館は、子どもの居場所としての機能も大きい。悩みを抱えた子どもの異変を察知できることもあるだろう。

学校司書らの配置を進め、気軽に立ち寄れる場所にしたい。

足を伸ばして本を読めるよう床に絨毯(じゅうたん)を敷いたり、漫画やコタツを置いたりして、居心地を良くしている学校もある。各自治体や学校で工夫を凝らしてほしい。

活字文化と学校図書館の議員連盟は今月、非正規雇用が多い学校司書の待遇改善や、図書の充実を求める決議を採択した。政府や自治体への働きかけを強め、改革につなげてもらいたい。

図書館で出会った一冊の本が、心に深く刻まれ、人生に大きな影響を与えるかもしれない。その重みを関係者の間で共有したい。